

平成 29 年度 FD 実施報告書

研究科・学部・学科	キャリア開発学科
FD 取り組みへの理念・目標 本学科は学内（FD 推進委員会、FD 推進センター、他学部・学科、事務局）および学外（企業、高等学校など）との有機的な関連・連携を深めることにより、FD の一層の推進・強化を図る。また、FD の効果は、学生の教育に還元されることはもとより、教職員の業務の効率化に資するものを目指す。	
回数、期間、実施日等	実施事項・内容、実施組織、評価項目等
	1. 学科教育ワークショップの実施 学科主任、FD 推進委員（1 名）、教育ワークショップ委員（3 名）が企画・立案、運営にあたった。
第 1 回 4 月 6 日	テーマ「入試結果の報告とその他」（入試広報部 入試課 塚田昭人 課長） 平成 29 年度入試を振り返り、総括を行った。今後の対策、課題について意見交換を行った。
第 2 回 5 月 8 日	テーマ「平成 28 年度 就職内定結果と今年度計画について」 （学生部 就職支援課 緒方圭子 課長、横倉紗希 課員） 過去 3 年間の卒業生の就職活動状況、本年度の就職支援内容、企業情報などについて、意見交換を行った。
第 3 回 6 月 1 日	テーマ「サークル活動の現状について」 （学生部 生活支援課 和田雅司 係長、岩尾祐介 係長） 本学のサークル活動の現状について報告があり、教員の理解を深める機会となった。
第 4 回 7 月 6 日	テーマ「学生募集について」（入試広報部 入試課 塚田昭人 課長） 本学科の志願者推移状況や、学生募集についての説明があり、意見交換を行った。
第 5 回 8 月 3 日	テーマ「就職状況について」（学生部 就職支援課 岡本健人 係長、横倉紗希 課員） 前学期までの 2 年生の就職活動状況について、就職支援課から報告があった。夏期休暇中の就職支援内容や、後学期へ向けての注意点等が示された。
第 6 回 9 月 5 日	テーマ「PC 必携化に向けた課題を考える」（情報システム室 塚元富一郎 室長） 平成 30 年度の本学科新入学生用の N-note 必携化に向け、想定される問題を整理して今後の課題について意見交換を行った。
第 7 回 10 月 5 日	テーマ「国際交流と留学支援について」 （学生部 国際交流・社会連携課 坂口咲子 課長） 本学の国際交流と留学支援の取り組み状況などについて説明があり、意見交換を行った。
第 8 回 11 月 6 日	テーマ「学生生活実態調査から見たキャリア開発学科の課題」 （学生部 生活支援課 岩尾祐介 課長補佐） 学生生活実態調査の様々なデータをもとに、キャリア開発学科の学生の課題を明らかにして、意見交換を行った。
第 9 回 12 月 7 日	テーマ「就職状況について」（学生部 就職支援課 横倉紗希 課員） 就職内定状況について、就職支援課から報告があった。引き続いての支援内容や注意点等が示された。

第 10 回 1 月 11 日	テーマ「海外インターンシップについて考える」 (学生部 国際交流・社会連携課 坂口咲子 課長) 本学の海外インターンシップ等の現状報告があり、学科としての今後の取り組みについても意見交換を行った。
第 11 回 1 月 29 日 (臨時)	テーマ「海外で学ぼう！スタートアップ研修 in 韓国」(東元大学校 脇山尚子 教授) 2 月実施予定の韓国東元大学校における研修について、その内容の説明等を受け、要望を出したり、意見交換を行ったりした。
第 12 回 1 月 30 日	テーマ「平成 30 年度教育ワークショップ計画 (案)」 来年度のワークショップ計画案が示された。
第 13 回 3 月 1 日	テーマ「平成 30 年度教育ワークショップ計画」 来年度のワークショップ計画の修正案が示された。
2. 学科 FD 研修会の実施 全学的な「学生による授業アンケート」結果を学科内でオープンにし、授業改善のための研修会を実施した。学科主任、FD 推進委員 (1 名) が運営にあたった。本研修会では、学生による授業アンケートの結果はどうだったのか、授業改善をどのように実施したのか、その結果、学生の評価はどのように変化したのか、また今後の授業改善計画について、各教員から担当の授業科目毎に報告してもらった。併せて、今後の授業改善のための数値目標を述べてもらい、それらについて意見交換を行った。	
第 1 回 5 月 15 日	テーマ「平成 28 年度後学期の結果による授業改善の結果と今後の計画」
第 2 回 10 月 16 日	テーマ「平成 29 年度前学期の結果による授業改善の結果と今後の計画」
3. プロジェクト研究会の実施 本学科では、平成 29 年度より新カリキュラムがスタートしたことを受け、プロジェクト研究として「新カリキュラムにおける効果的な指導法と成績評価基準に関する研究」を研究課題として取り組んでおり、平成 29 年度は 1 年目であった。本プロジェクト研究は、ループリックも含めた授業改善、インターンシップ、フィールドワークに関するものであり、本学科の FD の推進とも密接に関連しているので、8 月を除いて毎月 1 回 (原則第 3 または第 4 月曜日) 全 11 回、プロジェクト研究会を開催した。研究会では、進捗状況の報告、関連する文献研究や学会報告などを中心に、学科内で議論を深めた。本年度の研究成果は、中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要に 3 件の論文を発表した他、研究発表 3 件、その他 3 件であった。	
4. 通年授業公開の実施 本学科では、全学での実施に加えて、保護者なども対象に授業公開を実施した。しかし、残念ながら保護者の参加はなかった。また、今年度も福岡工業大学短期大学部との交流協定に基づき相互授業公開を予定していたが、福岡工業大学短期大学部の都合で実施できなかった。 また、ゼミナールⅡの授業を、本学科 1 年次生対象に、授業公開またはオープンゼミとして実施した。この狙いは、ゼミナールの FD 推進、および 1 年次生のゼミ選択の参考に供することであった。	
原則通年	
6 月の第 2 週 と第 3 週の 2 週間	
5. 福岡工業大学短期大学部との合同 FD 研修会の実施 福岡工業大学短期大学部と本短期大学部との交流協定に基づくものであるが、合同 FD	

第 1 回 9 月 5 日 第 2 回 2 月 27 日	研修会の推進に本学科は積極的に取組み、ほとんどの本学科教員が参加した。 第 1 回（於本学） テーマ 「短大における特別支援について～障がいのある学生の修学支援について考える～」 研修内容 （１）基調講演「特別な支援を必要とする学生への対応の仕方について」 九州大学キャンパスライフ・健康支援センター 室長 田中 真理 氏 （２）研修①「福岡工業大学短期大学部での特別支援の現状と課題」 福岡工業大学短期大学部 障がい学生修学支援委員会 吉原 克枝 氏 （３）研修②「特別支援に関する意見交換」 事前アンケートへの回答と意見交換 「障害者差別解消法」の施行（平成 28 年 4 月）にともない、障害がある学生の入学増が見込まれるため、短大における特別支援の在り方について学ぶことを目的として実施した。今回は、中村学園大学の教職員の参加もあった。 第 2 回（於福岡工業大学短期大学部） テーマ 「短大における授業改善・教育力改善について～ルーブリックについて考える～」 研修内容 （１）研修①「ルーブリック評価入門－パフォーマンス評価の理解と授業での活かし方－」 福岡工業大学 宮本 知加子 氏 （２）研修②「中村学園大学短期大学部におけるルーブリックの実践について」 中村学園大学短期大学部 梶田 鈴子 （３）研修③「ルーブリックに関する意見交換」 研修①②に対する質問や意見交換 前々回の FD テーマである「短大における授業改善・教育力改善について」を深度化させ、具体的に『ルーブリックについて考える』をテーマに、学生の学びをさらに向上させるために議論を深めた。 平成 29 年度の FD 推進は、福岡工業大学短期大学部との相互授業公開が福岡工業大学短期大学部の都合により実施できなかったことを除き、ほぼ計画通りに順調に推移し、終了した。 以 上
--	--

「教育システム改革 2014 (FD2014)」の進捗状況

項目	主な実施内容	進捗状況	補足説明
体系的な教育課程の編成	ナンバリングの導入	☐ 未着手 ☐ 検討中 ☐ 実施中 ☒ 実施済	他学科との形式の整合性が課題である。
授業科目の組織的な管理	ルーブリックの導入	☐ 未着手 ☐ 検討中 ☒ 実施中 ☐ 実施済	学科専任教員担当分の科目については、ゼミナールを除き導入済みである。平成 30 年度は、非常勤の担当科目への導入を予定している。
教員の教育力に対する評価の導入	授業アンケート結果の活用	☐ 未着手 ☐ 検討中 ☐ 実施中 ☒ 実施済	本学科 FD 研修会にて、データを学科内で公開し、授業改善目標の数値化を図るとともに、意見交換を行った。
教育方法の改善	アクティブラーニング（特に PBL）の推進 PBL：課題解決型授業	☐ 未着手 ☐ 検討中 ☒ 実施中 ☐ 実施済	今後も、本学科のより多くの科目でアクティブラーニングの導入を図っていく。また、フィールドワーク分野の科目を活用し、荒江団地における高齢者支援プロジェクトをはじめ、地域貢献活動を推進する予定である。

グローバル教育の推進	グローバル教育の導入	☐ 未着手 ☐ 検討中 ☒ 実施中 ☐ 実施済	149名の本年度入学生のうち海外で学んだものは、アメリカ・オーストラリアでの語学研修10名、台湾での異文化体験4名、韓国での異文化体験6名、計20名（13.4%）であった。
高大接続教育の推進	高大接続教育の推進	☐ 未着手 ☐ 検討中 ☐ 実施中 ☒ 実施済	入学前のプレカレッジを実施した。また、本学科インターンシップ・グランプリへの高校教員の招待、高大接続教育研究会への学科教員の参加も、今後推進していく。